

地域づくりオープンカフェ 西会津町奥川地区

～奥川中町集落の事例から～

福島大学行政政策学類 岩崎ゼミ

平成31年2月9日

AOZ

1. 岩崎ゼミの紹介

▶ テーマ：『農山村地域の再生を考える』

現代の日本において、高齢化・過疎化が進んだ農山村地域は今後ますます進行していく人口減少社会の『先進地』である。

そこで私たちは、農山村地域を私たちの生き方・暮らし方を見直すうえで多様な可能性を持つ地域として捉え、現地でのフィールドワークを通し、地域再生に向けた視点・方法を学んでいる。

2. 西会津町の概要

▶ 位置

西会津町は福島県の西北部耶麻郡、新潟県との県境に位置。

▶ 人口

男性：3071人・女性：3287人 計：6358人 (平成31年1月1日現在)

世帯数：2655世帯

1995年からの20年間で約3200人程度減少。

▶ 面積

298.18km²。うち約86%は山林。

冬は平均最深積雪量が142cmの雪深い地域。

3. 奥川地区の概要

人口 680人(男：327人、女：353人)

西会津町の総人口の1割を占めている。

21の集落から形成されており

ほとんどの集落で高齢化率50%を超えている。



西会津町公式HP <https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/>より引用

4. 活動の目的

①奥川地区とはどんな地区なのかを調査する

まずは奥川地区をしっかりと知る！

②奥川地区の魅力を調査する

奥川地区にあるまだ知られていない“良いもの”を探し、
外に発信する！

③奥川地区の課題や問題を調査する

奥川地区にある問題を一緒に解決する手助けをする！

地域の方々と話し、活動し、

**この地域を活性化させる取り組みは
何なのかを考えたい！**

5. 2018年度 活動内容

■ 年間スケジュール

4月28日、4月29日	奥川地区散策・人足体験
6月2日、6月3日	七観音ウォーク
6月30日、7月1日	奥川さんぽ・交流ツアー
8月14日、8月18日	奥川盆踊り・祭礼参加
9月9日～9月12日	住民聞き取り調査
10月20日、10月21日	空き家拠点の掃除、備品整理
11月2日～11月4日	奥川新そば祭り
12月15日～12月16日	空き家拠点の掃除、備品整理





▲ ①住民の方とのワークショップ

活動の様子



▲ ②人足



▲ ③聞き取り調査

6. 活動からわかったこと

～活動を通しての気づきや課題を3つの視点からまとめる～

1. 日常生活について

○集落内には農業にやりがいをもっている人が多い
→その中でも**元気な「ばあちゃん」**たちが印象的

○**屋号**で呼び合う風習がある→学生の目には新鮮にうつった

集落の魅力である！

2. 人足について

○大変な作業が多く、人手不足である

→**参加人数を増やす**かつ**集落の方々とよそ者の関係を深める**必要

3. 空き家について

○空き家が多く、集落の安全性や景観上問題になっている

→**利活用**の方法を模索する必要



7. 学生からの提案

【一日孫体験】

現地の方と仲良くなることを目的に、学生たちが「一日孫体験」として、集会所やお宅にお邪魔し、農作業や家事を手伝いながら、これまでの人生についてお話を伺い記録する「聞き書き」を行う。この活動で、より多くの人と密接にかかわる機会を作ることができる。

【屋号マップの作成】

屋号の風習を活かし、集落の屋号と地域の見所、魅力的な人々などを紹介する「屋号マップ」をつくる。この活動で、中町集落にしかない魅力を再発見することができ、それを発信するツールの一つをつくることができる。

【人足体験ツアー】

人足作業の人手不足を解消するための手段として、「人足体験ツアー」を企画する。人足と観光を結びつけることによって、来た人にも有意義な時間を過ごしてもらうことができる。

【学生が目線からみた情報の発信】

「集落を訪れようと思うにはどんな内容の情報がほしいのか？」という意見を現地の方からいただいたことから、集落を訪れた学生たちの感想などを元に、ポジティブ面をアピールする情報発信を進める。

【空き家再生プロジェクト】

学生やボランティアの拠点をつくることを目的に、昨年秋から取り組んでいる空き家リフォーム活動を継続して進めながら、具体的な活用方法を検討する。

また、空き家に対し「景観が悪い」「安全性が不安」という意見が多かったことから、アートイベントなどを取り入れながら、外観をきれいに保つための取り組みを検討する。

ご清聴ありがとうございました